裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真　　ＧＴ

山行番　　ＮＯ．１７９９
日　時　　２０１８．１２．２７（木）～２９（土）
山　域　　黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳（２９６７ｍ）
標高差　　上り＝駒ヶ岳神社駐車場約７７５ｍ～七丈小屋約２４２０ｍ＝約１６４５ｍ
　　七丈小屋約２４２０ｍ～甲斐駒ヶ岳２９６７ｍ＝約５３６ｍ
　　下り＝甲斐駒ヶ岳２９６７ｍ～駒ヶ岳神社約７７５ｍ＝約２１８１ｍ
参加者　　ＧＴ，ＫＨ

１日目　　１２月２８日（金）晴・気温低く強風
　　駒ヶ岳駐車場７：０７－横手口分岐９：１２―刃渡り８：０５－五合目１２：２２－垂直の梯子１３：１６―七丈小屋１３：３９（泊）

当初、年末の山は、霞沢岳西尾根だった。しかし、年末寒波襲来と近親者が入院中で良くない状態。山域を身近な山に変更した。甲斐駒なら有事の際もすぐ下山できる。
黒戸尾根を上るのは久しぶり。最近、下ったのは２０１５年、日向八丁～甲斐駒～黒戸。その時は厳しい山だった。一緒に上った三名中、二人が指を凍傷。一名は七丈小屋からヘリで救助され、甲府中央病院に即入院した。二人はこれを契機に会から去った。痛恨の極みだった。

朝の駒ヶ岳神社

神社駐車場でＫ小屋番と助手の若い女性二名と会った。相方は小屋番と１０月上った際、知り合った。何でも明日が何回目の誕生日という。小屋番は３５～６歳で髭面だった。女性二人は共に２５～６歳。一人は韮崎在住のホーリー（Ｈ？）と東京のＧだった。
後で知ったが、Ｋ小屋番とＧは以前、甲武信小屋で働いていたという。Ｇは私の山仲間、ＳのＨＰ

に顔写真が出ていた。小屋番達は先行した。我々も出発。下空はまあまあだが、上空は時雨れて気温は低く、強い西風が吹いていた。１Ｈ程で小屋番に追いついた。しばし歓談。
順調に上り、横手口分岐まで約２Ｈ。手前の急坂が少雪で凍結してなく助かった。笹平を経て刃渡り着。再び小屋番達に追いついた。しかし様子がおかしい。Ｇ嬢が「悪寒が酷く、寒くてどうしようもない」言っていた。ヤッケを着て温水を飲んだが改善しないようだ。結局、ここから降りることになった。体調が悪いのだろう。無理は禁物だ。

Ｋ小屋番とホーリー（左）とＧ（右）

刃渡り

アイゼンを装着し先行する。刃渡り上は更に風が強い。風上の右手中指が痛くて仕方がない。黒戸山下で後ろから足音が聞こえた。ホーリーだった。若い。脱兎の如く行ってしまった。そのうち小屋番も来て抜き去って行った。五合に着いた。風が更に強くなった。以前、五合には山小屋があった。
最後に利用したのは、２００３年１０月、日向八丁をやった時。当時、小屋は傾き崩壊寸前だった。
http://susono-reihou.babyblue.jp/page082.html

昔、小屋番だった古屋義成氏は１９９９年亡くなった。初めて会ったのは、１９６７年１１月、鋸をやった時。初めての甲斐駒だった。口うるさくて暗い感じの方。古典的な山小屋番だった。その後も何度か会ったが、良い印象はない。何故、あんなに排他的だったのか。
現在も農鳥小屋番は有名。ぶっきらぼうで温かい感じは皆無。ネットでもかなり悪名だ。五合から幾つかの梯子・鎖場を上る。一か所イヤらしい岩場がある。ここはいつも上り難い。

下山中の４名に会った。単独で黒戸尾根日帰りの方。ただ、七丈で退却。強風の中、登頂を果たしたアベック。黄蓮谷をやった３６歳の単独。ライターが点火せず、昨夜は温かいものを食べれなかったという。もうじき子供が生まれるので、早く帰りたいと下山を急いだ。

岩場を越えると小屋は近い。１３：３９、七丈小屋着。１４時前は早い到着。お客はまだ誰もいない。今日一番だった。以前の小屋は登山靴で入れたが、新しい管理人が改修して、上がり框で靴を脱がなければならず、いささか不便。登山客が多いときは、出発時、混雑は避けられない。今までが余程便利と思うが・・・。
ホーリーが茶を出してくれた。以前は、お汁粉がサッと出た。結局、今日の宿泊客は、時期がまだ早く、その時点で４０代のＫ，奥様が地元の５０代のＯと我々の４名だった。小屋は寒く、いつものビアを飲む気はしなかった。持参のワインを飲み、まったり過ごした。

１７時過ぎ、夕食を済ませる。小屋番がしきりに、今日はあと１名来るハズだと気を揉む。外はすでに暗くなった。こんな遅く来る方がいるだろうか？？そんな時、入り口でガタゴト音がしたかと思うと、雪まみれの単独登山客が現れた。聞けば駐車場を９時ころ出たという。それにしても時間が掛かった。しかも、ランプが切れて無灯で来たという。ランプが切れた場合、誰かに照らして貰わないと、電池交換等出来ない。単独はそれが叶わない。
登山者は７６歳といった。黒戸尾根は２０代のころ一度来ただけという。驚いた。家族とか仲間とか、そんな行動を懸念しないのか。近年、単独の年配者の遭難事故は多い。
その後、同宿者と情報を交換。Ｏは、何と北沢峠まで縦走したいといった。しかし、黒戸尾根～甲斐駒は初見である。それを聞いた小屋番は、「大丈夫だよ、行けるよ」「皆んな行ってるよ」と信じ

られない発言をした。常識的に小屋番は、遭難防止・遭難救助などの業務も担う。いかに、登山者に安全で楽しい登山を提供するか、常に考える必要がある。そんな危険な登山を「煽るような」小屋番がいるだろうか？？！！若いだけで選んだ小屋番は問題がある。
私は思わず「やめた方がイイ」「登山で一番安全なのは、往復登山」「縦走は上っていない未知の部分を下降するので危険が大きい」「行くなら、夏に歩いてからの方がよい」とアドバイスした。結果、彼は往復登山にしたが、冬山の怖さを知らない登山者が多すぎる。ほとんど感覚は夏山気分なのだ。小屋番も事があれば自身が一番大変なハズだが・・・。
夜はゴーゴーと風が唸っていた。一昨年の仙丈ヶ岳、昨年の北沢峠～甲斐駒と二年連続年末登山は強風で敗退している。今年もダメか、と一抹の不安が過った。ただ、黒戸尾根は東面なので、ある程度風は避けられる。無事登頂を願った。

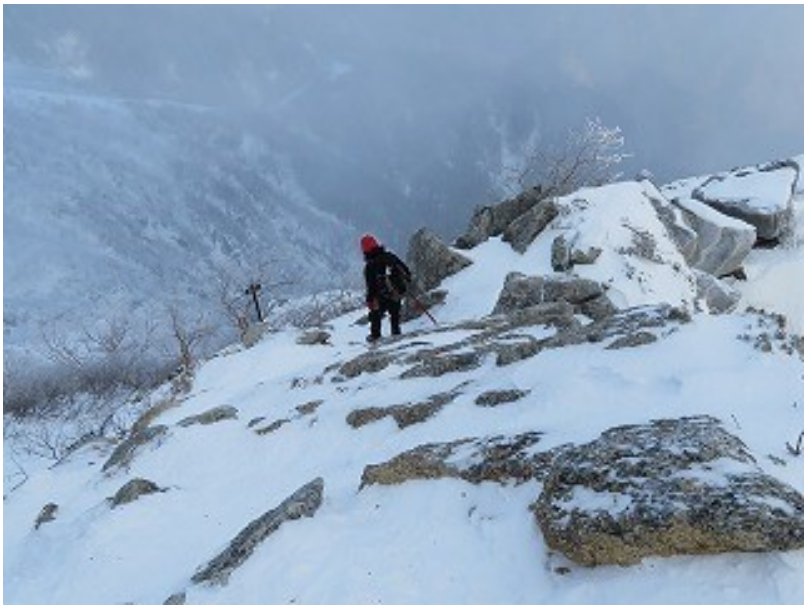
２日目　１２月２９日（土）曇り霧・風は弱い・それほど低温でない
起床５：００－小屋発６：１５－八合目７：１０－クラック岩７：４８—オットセイ岩—甲斐駒頂上８：５１—八合目９：４１—七丈小屋１０：２０～１１：００—駐車場１５：２９～１７：００－尾白の湯－帰静

トップで小屋発。Ｋ・Ｏはラッセルを懸念して後発するといっていた。若い衆がジジ・ババのラッセルを当てにするようじゃ世も末だ。
通常、七丈小屋から八合はモーレツな風道で吹き溜まりが出来る。しかし、今年は少雪もあいまってラッセルは少なかった。八合から霧が深く薄暗く道が分かりずらい。

クラック岩（左）

クラックの鎖場でテント泊の若者３名に抜かれた。聞けば、彼らは黄蓮谷クライミングの予定だったが、事情があってピークハントに変更したようだ。最近、若い衆に抜かれることが多い。
九合のオットセイ岩着。ただ、相方が弱気。気合・叱咤激励を入れる。先ほどの３名が下りてきた。
頂上の祠が見え、ほどなく頂上着。何回上っても、相変わらず苦しい山だった。

頂上を楽しむ余裕はなくすぐ下山。下山は速く楽だ。風が弱く助かった。
これで冬の甲斐駒は何回上っただろうか。すぐ下でＫに会った。その下でＯに会った。



下山

オットセイ岩で休憩。少し明るくなった。
ぐんぐん下り八合下で７６歳の方に会った。一見、装備は古くなくしっかりした物だった。
「どうしますか？？」と問えば、「どうしようかな～」と答えた。確固たる意志かなければ止めたほうが良い。結果的には、午後からモーレツな風になったので止めたほうが良かった。

７６歳の方、ピッケルは木

小屋で大休憩。カップ麺とオデンを食べた。温かいものが五臓六腑に沁みる。
ＫもＯも一緒だった。７６歳の方は不明。どうしたか？？
１１時下山開始。下から単独が２～３名、大荷物のアベック、１０名の団体が上ってきた。まだ、２９日だから入山者は少ない。明日が多いようだ。皆、一様に「上って来ましたか？」と尋ねる。この場合、未登だと返事に窮する。
長い長い下りで駐車場着。４時間半掛かった。２００８年は４時間、２０１３年は４時間２０分、２０１５年は４時間２０分。今回もそれほど遅い訳ではなかったが、兎に角疲れた。帰静後、めったにならない筋肉痛が２日間続いた。かつてこんなことはなかった。６回目の年男とはこんなものか？？
駐車場の「おじろ」のババさまの所で、温いビア２、熱燗１をやってしまった。ババさまは、白菜のおしんこ、つきたての餅、野沢菜など出してくれた。美味しかった。
昔、三島にいたＩの故郷が白洲で所在を聞くと「酒の飲み過ぎで死んだ」といった。会いたかったが・・・。山梨県警のパトがあり、警察官２名と雑談。昨日、仙水方面で遭難騒ぎがあったようだ。
２０１８年最後の山は終わった。

尾白川吊り橋

七丈小屋

甲斐駒頂上

九合付近

怖い梯子